

週間火山概況 (平成 26 年 6 月 13 日 ~ 6 月 19 日)

【火山現象に関する警報等の発表状況】

いずれの火山についても、噴火に関する予報警報事項（警戒が必要な事項）に変更はありません。

表 1 火山現象に関する警報等の発表履歴 (平成 26 年 6 月 13 日 ~ 6 月 19 日)

発表日時	火山名	特別警報・ 警報・予報	概要
19 日 08 時 32 分	桜島	降灰予報	噴火に伴う降灰地域予想
毎日 07 時、17 時	三宅島	火山ガス予報	島内の火山ガスの分布予想

表 2 6 月 19 日現在の火山現象に関する警報等の発表状況

特別警報・ 警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 3 (入山規制)	桜島
	入山危険	西之島
	レベル 2 (火口周辺規制)	草津白根山、三宅島、霧島山(新燃岳)、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報(周辺海域)	周辺海域警戒	福徳岡ノ場
噴火予報	レベル 1 (平常)	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、秋田焼山、岩手山、秋田駒ヶ岳、吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳、浅間山、新潟焼山、焼岳、御嶽山、富士山、箱根山、伊豆東部火山群、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山(御鉢)、薩摩硫黄島、口永良部島
	平常	上記以外の活火山

印のついた火山は火山現象に関する海上警報も発表中。



図 1 火山現象に関する警報を発表中の火山 (6 月 19 日現在)

この資料は気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) にも掲載しています。

【警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

くまつしらねさん

草津白根山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

火山活動の活発化を示すデータが引き続き観測されています。

GNSS¹⁾ 観測によると湯釜付近の膨張を示す変動がみられており、全磁力観測では湯釜近傍地下の温度上昇を示す変化がみられています。

また、火山性地震は今期間やや多い状態で経過しました（図2）。火山性微動は観測されていません。遠望カメラによる噴気などの状況等、他のデータには特段の変化は見られていません。

湯釜火口から概ね1kmの範囲では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺のくぼ地や谷地形などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがありますので、注意してください。

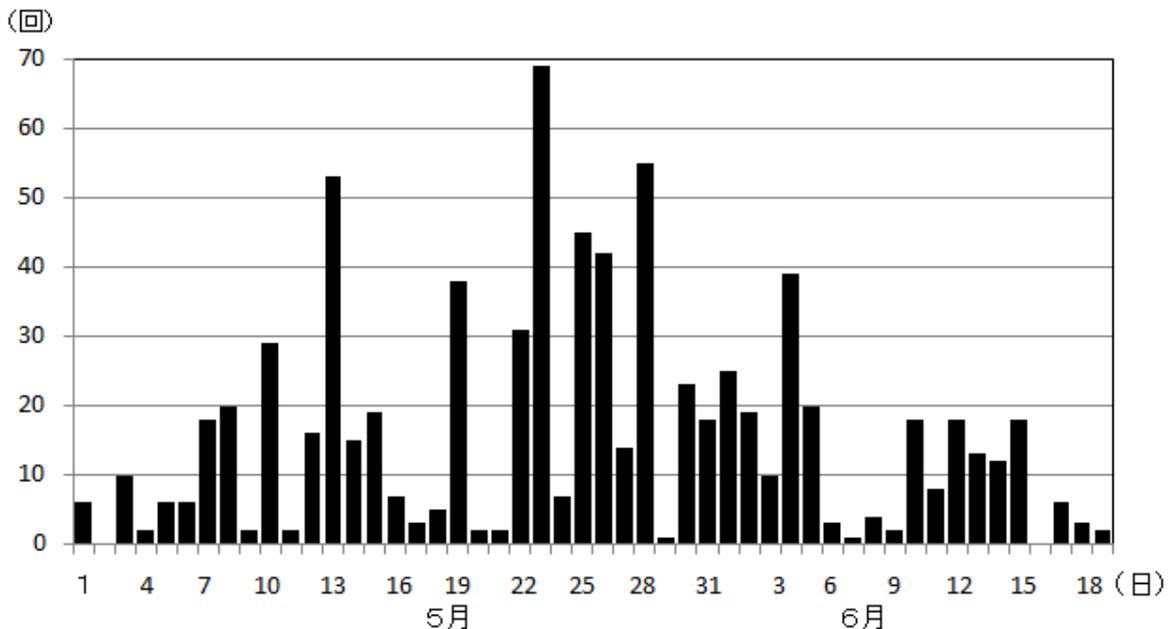


図2 草津白根山 日別地震回数（5月1日～6月19日）

みやげしま

三宅島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

今期間、噴煙の高さは、火口縁上100m以下で経過しました。

火山性地震は、少ない状態で経過しました。

13日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり300トン（前回5月9日 200トン）で、やや少ない状態でした。

三宅村によると、山麓ではまれにやや高濃度の二酸化硫黄が観測されています。

山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に警戒してください。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では、火山ガスに警戒してください。

にしのみしま

西之島 [火口周辺警報（入山危険）及び火山現象に関する海上警報]

海上保安庁によると、西之島では活発な噴火活動が続いています。13日に海上保安庁が実施した上空からの観測によると、4ヶ所の火口が確認されました。北側火口（図3矢印）からは短い間隔で褐色を帯びた白色噴煙が噴出していました。5月21日に確認された火口（図3矢印）からは青白色の噴煙を連続的に噴出し、短い間隔で溶岩片を火口縁から約50～100mの高さに放出していました。6月11日に確認された火口（図3矢印）からは青白色の噴煙を連続的に噴出し、火口内は溶岩湖となっていました。溶岩流は、この火口付近から南東方向に扇状に広がっていました。これら3つの火口では激しく溶岩片を吹き上げるストロンボリ式噴火を確認しました。南側火口（図3矢印）では活動は認められませんでした。

新たに形成された陸地（西之島と接続した新島部分）の東岸と西岸では、海面に接した場所で白煙を上げていました。新たに形成された陸地の東岸から西岸にかけて緑色の変色水が幅約200～400mで分布していました。

西之島では、今後も噴火が続くおそれがありますので、西之島の中心から概ね6km以内の範囲では噴火に警戒してください。また、周辺海域では浮遊物に注意してください。



図3 西之島の状況 (13日11時08分撮影 海上保安庁提供)

いおうとう 硫黄島 [火口周辺警報(火口周辺危険)及び火山現象に関する海上警報]

火山性地震は3月からやや多い状態で経過しています。今期間はやや少ない状態で経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

国土地理院のGNSS¹⁾観測によると、地殻変動は2014年1月頃から停滞していましたが、2月下旬頃から隆起の傾向がみられています。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生しています。このことから火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火が発生している地点(ミリオンダラーホール等)及びその周辺では噴火に警戒してください。

ふくとくあかのぼ 福德岡ノ場 [噴火警報(周辺海域警戒)及び火山現象に関する海上警報]

今期間、海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁による上空からの観測は行われませんでした。これまでのこれら機関の観測によると、福德岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されており、今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では噴火に警戒してください。

まりしまやま しんもろだけ 霧島山(新燃岳) [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

新燃岳では今期間、噴火は発生しませんでした。

火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は観測されませんでした。

傾斜計²⁾では、火山活動に伴う特段の変化は認められませんでした。

GNSS¹⁾観測によると、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2011年12月以降鈍化・停滞していましたが、2013年12月頃から伸びの傾向が見られます。今後の火山活動の推移に注意する必要があります。

新燃岳火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒してください。噴火時には、風下側で火山灰だけでなく小さな噴石³⁾(火山れき⁴⁾)が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。降雨時には、泥流や土石流に注意してください。

さくらしま 桜島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)]

桜島では、活発な噴火活動が続きました。

昭和火口では、爆発的噴火が8回発生し、多量の噴煙が火口縁上3,000mまで上がりました。19日10時12分の爆発的噴火では、大きな噴石³⁾が3回目(昭和火口より1,300~1,800m)まで達しました。大き

な噴石が3合目まで達したのは5月12日以来です。

同火口では、夜間に高感度カメラ⁵⁾で明瞭に見える火映を13日に観測しました。

南岳山頂火口では、噴火は発生しませんでした。

12日(前期間)に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は1日あたり2,500トン(前回5月9日、2,300トン)と多い状況でした。

地殻変動観測では、桜島島内で山体が隆起・膨張する傾向がみられます。また、始良カルデラ深部の膨張は、停滞していますが、長期的には膨張が進行しています。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石³⁾(火山れき⁴⁾)が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

諏訪之瀬島【火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)】

御岳火口^{あたま}では爆発的噴火が頻発するようになり18日に1回、19日に2回、20日12時現在(期間外)8回発生するなど活発な噴火活動となりました。諏訪之瀬島で爆発的噴火が発生したのは、4月29日以来です。

同火口では、夜間に高感度カメラで火映を18日から19日にかけて観測しました。

火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動を時々観測しました。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石³⁾が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

【噴火予報発表中の火山の活動状況及び予報事項】

上記以外の火山では、期間中、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

- 1) GNSS(Global Navigation Satellite Systems)とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。
- 2) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがあります。
- 3) 噴石については、その大きさによる風の影響の程度の違いによって到達範囲が大きく異なります。本文中「大きな噴石」とは「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とはそれより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことです。
- 4) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現しています。
- 5) 九州地方整備局大隅河川国道事務所が黒神河原上流に設置したカメラ等によります。

注) 本資料は速報的な内容を含みます。データについては精査により、後日修正することがあります。

詳細については、毎月発表の火山活動解説資料を参照してください。

http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

【参考】 噴火警報・予報と噴火警戒レベル等の対応表

噴火警戒レベル対象火山		噴火警戒レベル対象外の火山
噴火警戒レベル(キーワード)	警報・予報	警戒事項等(キーワード)
レベル5(避難)	噴火警報	居住地域嚴重警戒
レベル4(避難準備)		
レベル3(入山規制)	火口周辺警報	入山危険
レベル2(火口周辺規制)		火口周辺危険
レベル1(平常)	噴火予報	平常

海底火山については、噴火警報(周辺海域)(キーワード:周辺海域警戒)と噴火予報(キーワード:平常)で発表します。

印のついた噴火警報は、特別警報に位置づけられています。